

委託事業実施内容報告書
平成29年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(A)】

内容報告書

団体名: 佐賀県日本語学習支援“カスタネット”

1. 事業の概要

事業名称	佐賀県在住の外国籍住民への日本語教育支援事業「サガン日本語支援モデル・プロジェクト」2017
事業の目的	散在地域である佐賀県では在住の外国籍住民への日本語教育支援が十分に行き届いていない現状がある。そこで平成29年度も以下の3つの目的で活動する。 ①昨年度に続き3市で「初級日本語集中講座」を行う。 ②一つの市でボランティアと共に活動する「フォローアップ講座」を開講し、地域の日本語教室の継続的な活動を支援する。また、外国人児童生徒に対する日本語指導をサポートする人材を広く養成する。 ③昨年度に続き、佐賀県在住の外国籍住民のためのガイドブックを作成、増補する。これらの活動によって、外国籍住民が自立した生活ができるように支援する。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	佐賀県は外国籍住民の散在地域で、平成28年末現在9市に12の日本語教室が活動しているにすぎない。佐賀県在住の外国籍市民にとって、以下の3点の課題がある。 ①来日直後の外国籍市民に対する日本語初期指導を行う機関がない。地域のボランティア教室での対応は困難である。 ②せっかく日本語教室を立ち上げたものの、外国人参加者および日本人参加者も減って、教室の存続自体が危ぶまれるケースもある。一方で、外国人技能実習生は増加の一途をたどり、日本語教室を求めているという実情がある。散在地域においては点在して住んでいる外国人と日本語教室を結び付ける難しさがある。 ③外国につながる児童生徒が増加している現状に対して、日本語指導ができる人材が不足している。
事業内容の概要	佐賀県在住の外国籍市民が自立した生活が送れるように、①～④の事業を行った。 ①「初級日本語集中講座」(以下、「集中講座」という): 日本語教育専門家が集中的に文法を中心とした日本語教室を開講した。この教室の目的は日常的に通う地域の日本語教室で日本語学習を継続的に行うことのサポートをすることであるので、「集中講座」の最終日に地域のボランティア教室の方に参加してもらって発表会を行い、地域の日本語教室のスタッフと学習者の橋渡しを行った。終了後は地域の日本語教室に「集中講座」の講師が出向き、フォローアップをする「継続学習指導」を行った。 ②「フォローアップ講座」: 周知活動を含めた日本語教室の活性化につながる企画を「フォローアップ講座」の参加者と共に考え、また、日本語教室の実際のやり方や運営の仕方をも講座で行い、日本語教室の充実を図る。上記「集中講座」の意義を活かすため、「集中講座」を「フォローアップ講座」開催地区で行い、上記記載の「継続学習指導」も「フォローアップ講座」の内容の一つとして行った。 ③外国籍児童生徒が増えている現状を踏まえ、今年度は外国人児童生徒に対する日本語指導をする人材を養成した。広く人材を養成するとともに、現在活動中の支援員の研修も行った。 ④『ガイドブック佐賀』の改訂・増補: 28年度に佐賀県の特徴を盛り込んだガイドブックを作成し、佐賀県で暮らす外国籍住民が自立した生活ができるようにした。上記①「集中講座」及び②「フォローアップ講座」は地域の日本語教室の充実を図ることを目的として実施するもので、「集中講座」後のフォローとして、H27年度作成の『活動ブック』や『ガイドブック佐賀』を各地域の日本語教室に提供することが目的達成のために必要なことと考える。今年度は、改訂・増補を行い、また「外国人のための佐賀の生活理解講座」を行い、地域の日本語教室で活用してもらうよう努めた。
事業の実施期間	平成29年7月～平成30年3月 (9か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	有瀬 尚子	佐賀県日本語学習支援“カスタネット”
2	早瀬 郁子	佐賀県日本語学習支援“カスタネット”
3	貞松 明子	佐賀県日本語学習支援“カスタネット”
4	馬場 三佳	佐賀市国際交流協会
5	北御門 織絵	佐賀県地域交流部国際課
6	西尾 義久	伊万里市政策経営部国際交流室
7	中島 禎文	伊万里市政策経営部国際交流室
8	斉藤 篤利	日本語教室いまり
9	田中 亮子	日本語教室いまり
10		



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成29年8月21日 (土) 9:30～11:00	1.5時間	伊万里市役所	西尾義久氏、北御門織絵氏、斉藤篤利氏、田中亮子氏、貞松、有瀬	1. 「日本語教室活性化フォローアップ講座in伊万里」の開催について(講座内容の説明、質疑、具体的な日程決め) 2. 「日本語教室いまり」の現状、問題点、佐賀県内の現状
2	平成30年3月1日(木) 10:00～11:30	1.5時間	伊万里市役所	西尾義久氏、中島禎文氏、斉藤篤利氏、田中亮子氏、中島恵理子氏、永尾操氏、貞松、有瀬	1. 「日本語教室活性化フォローアップ講座in伊万里」の終了を受けて(講座の成果と反省事項、質疑、今後に向けて) 2. 「日本語教室いまり」の今後の活動、伊万里市役所のフォローについて
3					
4					

(2) 事業の実施体制

中核メンバーは大学の非常勤講師として留学生への日本語教育に従事している。取組の中の①「初級日本語集中講座」においては全体のコーディネートだけでなく指導者として1日6時間の授業を担当する。②の人材養成の「フォローアップ講座」および「日本語指導支援員養成講座」では、講師及び補助者として講座を運営する。コーディネーターとして、講座全体をコントロールして多方面にわたり日本語教室の運営の手助けをする。③『ガイドブック佐賀』の改訂・増補を行った。実際に日本語教室で使用できるように、講座を行う。これまでの本事業で作成した教材同様、中核メンバーが執筆を担当し、教材を使った活動方法をボランティア教室の皆さんに紹介した。

(3) 地域における連携体制

子ども支援においては、佐賀県教育委員会、(公財)佐賀県国際交流協会、佐賀市教育委員会および伊万里市教育委員会、佐賀市国際交流協会、佐賀市及び伊万里市の日本語指導担当教員の配置された学校等の連携が図れている。また、作成された「ガイドブック佐賀～学校編～」は県下の外国人児童の在籍する小学校を中心に配布され活用されている。

3. 各取組の報告

日本語教育の実施①【活動の名称：初級日本語集中講座 in 小城】									
目的・目標	日本語教育専門家による日本語を母語としない国籍住民を対象に「初級日本語集中講座」を開く。								
対象	来日直後の外国籍住民、及び日本語教育専門家による初期指導を受けていない、または体系的に日本語学習をしていない外国籍住民								
取組の内容	・「1日6時間×6日（＋発表会2時間）計38時間」がひとまとまりの講座を、小城市で開講した。 ・日本語基礎文法習得のための講座を行なった。 （丁寧体・普通体、複文、自動詞他動詞、敬語などを体系的に学習するインプット中心の講座を実施した） ・最終日の発表会に、地域の日本語教室のボランティアを招き、継続学習のための橋渡しを行った。 ・その後、小城市の日本語教室へ出向き、「初級日本語集中講座」を受講した学習者が、教室で継続学習できるよう、助言などの支援を行った。（10月17日、10月24日、2時間×2回）								
実施期間	平成29年9月16日～平成29年10月8日					曜日・時間帯		土・日曜日（9:00～16:00）	
開催回数	全 36時間 全8回 （集中講座…30時間＋発表会2時間 ） （継続支援…1回2時間×2回 ）					開催場所		ゆめぶらっと小城	
参加者	総数 16 人 （日本語学習者 7 人、指導者・支援者 9 人など）					使用した教材・リソース		当団体オリジナルテキスト 文化庁カリキュラム案教材例集	
出身・国別内訳 （人数）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
	2						5		
カリキュラム案活用	「安全を守る」を使って地震への対応について、「社会の一員となる」を使い、市役所での手続きについて学習した。								
日本語教育の実施内容									
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要		指導者名	補助者名
1	平成29年9月16日 （土） 9:00～16:00	6	ゆめぶらっと 小城	5	初級基礎文法の復 習	名詞文、動詞文、形容詞文を確認する。 形容詞、動詞の活用が正しく使えて 言えるようになる。 会話でよく使う「～んです」が適切に 使えるようになる。		有瀬 尚子	無し
2	平成29年9月17日 （日） 9:00～16:00	0	ゆめぶらっと 小城		台風のため中止				
3	平成29年9月23日 （土） 9:00～16:00	6	ゆめぶらっと 小城	6	普通形応用	会話体「～んです」、名詞修飾、「とき」 など、普通形を使った文型を学ぶ		有瀬 尚子	無し
4	平成29年9月24日 （日） 9:00～16:00	6	ゆめぶらっと 小城	4	自動詞、他動詞	自動詞他動詞の意味、概念の理解。 ペアになる自動詞他動詞を使って会 話が適切にできるようになる。 物事が完了したときや、後悔、残念な 気持ちが言えるようになる。		有瀬 尚子	無し
5	平成29年9月30日 （土） 9:00～12:00	3	ゆめぶらっと 小城	6	自動詞・他動詞 地 震災害	自動詞、他動詞の復習をする。災害 時の情報を伝える		貞松 明子	無し
6	平成29年10月7日 （土） 9:00～16:00	6	ゆめぶらっと 小城	4	授受表現、複文応用	「～と、～たら、～ば」などの文型の理 解 正しく作れて、会話の中で適切に使える ようになる。		有瀬 尚子	無し
7	平成29年10月8日 （日） 13:00～18:00	5	ゆめぶらっと 小城	16	敬語体系 まとめ 発表会	待遇表現である尊敬語や謙譲語の体 系を理解し、適切に使えるようになる。 授業で書いた作文を発表する。		有瀬 尚子（3 h）	貞松明子（5h） 有瀬尚子（2h）
8	平成29年10月17 日（火） 19:00～21:00	2	ゆめぶらっと 小城	6	継続支援	ボランティア教室活動のコーディネー ションや助言を行った。 集中講座受講者の学習支援をした。		貞松 明子	無し
9	平成29年10月24 日（火） 19:00～21:00	2	ゆめぶらっと 小城	6	継続支援	ボランティア教室活動のコーディネー ションや助言を行った。 集中講座受講者の学習支援をした。		貞松 明子	無し

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第3回 29年9月23日】

授業で文法を理解し、会話練習を行ったあと、テキストの練習問題を行った。カスタネットで作成したテキストはバインダー方式で自由に切り外しができるので、もう一度見たいところを切り離して見たり、片面だけの印刷なので、今日学習した内容を書き込んだりしていた。以前学習した内容を忘れないことがこの講座の利点であり、一人で前のページを開いて、じっくり考えて書き込む人が多く、自律的な学習になっている。



○取組事例②

【第7回 29年10月8日】

最終日の発表会の様子。1日6時間の内容は濃いもので、1週間の授業で学んだ文を使い、自己紹介や日本に来て感じたことなどを発表するところまでできた。日本人にはないユニークな発想を発表し、日本人からもさまざまな質問も出た。講座後、日本人ボランティアからはボランティア教室の存在の意義や大切さを今まで以上に感じたという感想をもらった。



(2) 目標の達成状況・成果

小城市の担当者やボランティア教室との連携が密に取れたことで、受講者は、日本語教室での継続した学習ができた。
・託児利用では多久市と多久市ファミリーサポートセンターとの連携で受講者の子どもを預けることができ、受講者は安心して勉強することができた。
・「初級日本語集中講座」で効率よく且つ効果的に日本語文法を学習できた。
・受講者の感想からは、講座が役に立った、よかったなどの高評価を得た。
「日本語をたくさん勉強しました。勉強前にわからないところ、いま80%わかりました。」
「むずかしくてもおもしろいです。」
「また(講座が)あったら、日本語をべんきょうします。」

(3) 今後の改善点について

・1年に1回、1週間のコース日程に参加するのが難しい人もいた。参加を希望しても仕事等の問題で全日程参加ができないことがあった。
・毎年1回でも日程時期がしっかり固定していれば参加希望者にもその旨伝えられる。講座を市で予算化できないか、定期的にも実施できるよう、今後、市の担当者と連携を組みながら、どうすべきか考えていく。
・文法学習は「初級日本語集中講座」で、文字学習や会話学習、地域交流はボランティア教室で、という流れがしっかりと根付いてきた。更にボランティア教室が活動できるよう、行政や市民へ周知を含め働きかけていく。

日本語教育の実施②【活動の名称：初級日本語集中講座 in 伊万里】										
目的・目標	日本語教育専門家による日本語を母語としない国籍住民を対象に「初級日本語集中講座」を開く。									
対象	来日直後の外国籍住民、及び日本語教育専門家による初期指導を受けていない、または体系的に日本語学習をしていない外国籍住民									
取組の内容	・「1日6時間×6日（＋発表会2時間）計38時間」がひとまとまりの講座を、伊万里市で開講した。 ・日本語基礎文法習得のための講座を行なった。 （丁寧体・普通体、複文、自動詞他動詞、敬語などを体系的に学習するインプット中心の講座を実施した） ・最終日の発表会に、地域の日本語教室のボランティアを招き、継続学習のための橋渡しを行った。 ・その後、伊万里市の日本語教室へ出向き、「初級日本語集中講座」を受講した学習者が、教室で継続学習できるよう、助言などの支援を行った。（2月25日、3月11日、2時間×2回）									
実施期間	平成30年2月3日～平成30年3月11日					曜日・時間帯		火・水・金・土・日曜日(10:00～17:00)		
開催回数	全 42時間 全9回 (集中講座…36時間＋発表会2時間) (継続支援…1回2時間×2回)					開催場所		伊万里市民図書館 生涯学習センター		
参加者	総数 14 人 (日本語学習者 5 人、指導者・支援者 9 人など)					使用した教材・リソース		当団体オリジナルテキスト 文化庁カリキュラム案教材例集		
出身・国別内訳 (人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	
			1	4						
カリキュラム案活用	「安全を守る」を使って地震への対応について、「社会の一員となる」を使い、市役所での手続きについて学習した。									
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要		指導者名	補助者名	
1	平成30年2月3日 (土) 10:00～17:00	6	伊万里市民 図書館	3	初級基礎文法の復 習	名詞文、動詞文、形容詞文を確認する。 形容詞、動詞の活用が正しく使えて 言えるようになる。 会話でよく使う「～んです」が適切に 使えるようになる。		貞松 明子	無し	
2	平成30年2月10日 (土) 10:00～17:00	6	伊万里市民 図書館	3	普通形応用	会話体「～んです」、名詞修飾、「とき」 など、普通形を使った文型を学ぶ		有瀬 尚子	無し	
3	平成30年2月11日 (日) 10:00～17:00	6	伊万里市民 図書館	3	自動詞、他動詞	自動詞他動詞の意味、概念の理解。 ペアになる自動詞他動詞を使って会 話が適切にできるようになる。 物事が完了したときや、後悔、残念な 気持ちが言えるようになる。		有瀬 尚子	無し	
4	平成30年2月18日 (日) 10:00～17:00	6	伊万里市民 図書館	1	普通形応用	会話体「～んです」、名詞修飾、「とき」 など、普通形を使った文型を学ぶ		有瀬 尚子	無し	
5	平成30年2月20日 (火) 10:00～13:00	3	伊万里市民 図書館	2	自動詞・他動詞 地 震災害	自動詞、他動詞の復習をする。災害 時の情報を伝える		貞松 明子	無し	
6	平成30年2月21日 (水) 13:00～18:00	5	伊万里市民 図書館	3	授受表現、複文応用 発表会	「～と、～たら、～ば」などの文型の理 解 正しく作れて、会話の中で適切に使える ようになる。授業で書いた作文を発表する。		有瀬 尚子(3 h)	貞松明子(2h) 有瀬尚子(2h)	
7	平成30年2月23日 (金) 10:00～17:00	6	伊万里市民 図書館	3	敬語体系 まとめ	待遇表現である尊敬語や謙譲語の体 系を理解し、適切に使えるようにな る。		貞松 明子	無し	
8	平成30年2月25日 (日) 14:00～16:00	2	生涯学習セン ター	10	継続支援	ボランティア教室活動のコーディネー ションや助言を行った。 集中講座受講者の支援をした。		有瀬 尚子	無し	
9	平成30年3月11日 (日) 14:00～16:00	2	生涯学習セン ター	10	継続支援	ボランティア教室活動のコーディネー ションや助言を行った。 集中講座受講者の支援をした。		有瀬 尚子	無し	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第2回 30年2月10日】

授業で文法を理解し、会話練習を行ったあと、テキストの練習問題をした。10年以上伊万里在住の方々ではあるが、今まで体系立てて勉強した経験がなく、今回初めてカスタネットで作成したテキストを使用し体系的な文法理解ができた。
今日学習した内容を書き込んだり、文型を使った例文を作ったりとするなどの練習も行った。



○取組事例②

【第6回 30年2月21日】

最終日の発表会の様子。1週間の授業で学んだ文を使い、自己紹介や日本に来て感じたことなどを学習者に発表してもらった。日本人ボランティアからは受講者との交流が初めてでもあり、様々な話ができ活発な交流ができた。
修道院の院長も来られ、今まで生活するうえで困っていたが勉強できる機会が与えられたことに感謝されていた。



(2) 目標の達成状況・成果

・伊万里市の担当者やボランティア教室との連携が密に取れたことで、受講者は、日本語教室での継続した学習ができた。
・「初級日本語集中講座」で効率よく且つ効果的に日本語文法を学習できた。
・受講者の感想からは、講座が役に立った、よかったなどの高評価を得た。
「今までは特に動詞や助詞などの使い方はわからなくて大変でした。日本語で正しく話せるようになってきて誠に感謝いたします。」
「日本語の根本的文法を学ぶことができて、本当にうれしかったです。毎年このようなプログラムがあればとても助けになります。」
「文化庁、伊万里市関係の方が感謝申し上げます。外国人にとっていちばん困難なことはことばが分からないことです。日本語を学ぶ機会が与えられ、参加できたことを嬉しくおもいます。」

(3) 今後の改善点について

・毎年1回でも日程時期がしっかり固定していれば参加希望者にもその旨伝えられる。講座を市で予算化できないか、定期的に実施できるよう、今後、市の担当者と連携を組みながら、どうすべきか考えていく。
・文法学習は「初級日本語集中講座」で、文字学習や会話学習、地域交流はボランティア教室で、という流れがしっかりと根付いてきた。更にボランティア教室が活動できるよう、行政や市民へ周知を含め働きかけていく。

日本語教育の実施③【活動の名称：初級日本語集中講座 in 鹿島】										
目的・目標		日本語教育専門家による日本語を母語としない国籍住民を対象に「初級日本語集中講座」を開く。								
対象		来日直後の外国籍住民、及び日本語教育専門家による初期指導を受けていない、または体系的に日本語学習をしていない外国籍住民								
取組の内容		・「1日6時間×6日（＋発表会2時間）計38時間」がひとまとまりの講座を、鹿島市で開講した。 ・日本語基礎文法習得のための講座を行なった。 （丁寧体・普通体、複文、自動詞他動詞、敬語などを体系的に学習するインプット中心の講座を実施した） ・最終日の発表会に、地域の日本語教室のボランティアを招き、継続学習のための橋渡しを行なった。 ・その後、小城市の日本語教室へ出向き、「初級日本語集中講座」を受講した学習者が、教室で継続学習できるよう、助言などの支援を行った。（3月10日、3月13日、2時間×2回）								
実施期間		平成30年3月9日～平成30年3月19日				曜日・時間帯		木・金・土・日曜日(10:00～17:00)		
開催回数		全 42時間 全8回 (集中講座…36時間＋発表会2時間) (継続支援…1回2時間×2回)				開催場所		鹿島市民交流プラザかたらい		
参加者		総数 8 人 (日本語学習者 3 人、指導者・支援者 5 人など)				使用した教材・リソース		当団体オリジナルテキスト 文化庁カリキュラム案教材例集		
出身・国内別訳 (人数)		中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン
			1							
		アメリカ 2人								
カリキュラム案活用		「安全を守る」を使って地震への対応について、「社会の一員となる」を使い、市役所での手続きについて学習した。								
日本語教育の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	取組のテーマ	授業概要		指導者名	補助者名	
1	平成30年3月9日 (金) 9:00～16:00	6	鹿島市民交流プラザかたらい	1	初級基礎文法の復習	名詞文、動詞文、形容詞文を確認する。 形容詞、動詞の活用が正しく使えて言えるようになる。 会話でよく使う「～んです」が適切に使えるようになる。		貞松 明子	無し	
2	平成30年3月11日 (日) 9:00～16:00	6	鹿島市民交流プラザかたらい	1	授受表現、使役、受身 地震災害	授受動詞のつくり方、文型を使った表現を学ぶ。使役や受身形のつくり方の確認と練習問題を解く。 文化庁のカリキュラム案や、カスタネット教材の「地震災害」について話し合う。		貞松 明子	無し	
3	平成30年3月15日 (木) 9:00～16:00	6	鹿島市民交流プラザかたらい	2	初級文法、名詞文 敬語体系	あいさつ、物の名前、名詞文の構造理解。 動詞を使った文作をする。 待遇表現である尊敬語や謙譲語の体系を理解し、適切に使えるようになる。		有瀬 尚子	無し	
4	平成30年3月16日 (金) 9:00～16:00	6	鹿島市民交流プラザかたらい	1	複文応用	「～と、～たら、～ば」などの文型の理解 正しく作れて、会話の中で適切に使えるようになる。		貞松 明子	無し	
5	平成30年3月17日 (土) 9:00～18:00	8	鹿島市民交流プラザかたらい	2	普通体、丁寧体 普通形を使った文型 名詞修飾 発表会	普通形のつくり方の復習をする。 普通形を使った名詞修飾を学ぶ。 正しく作れて、会話の中で適切に使えるようになる。 鹿島日本語教室と合同で発表会を行う。		有瀬 尚子(6h)	馬場三佳(2h) 有瀬尚子(2h)	
6	平成30年3月19日 (月) 9:00～16:00	6	鹿島市民交流プラザかたらい	1	複文応用	「～そう、～よう」などの文型の理解 正しく作れて、会話の中で適切に使えるようになる。		貞松 明子	無し	
7	平成30年3月10日 (土) 10:00～12:00	2	鹿島市民交流プラザかたらい	5	継続支援	ボランティア教室活動のコーディネーションや助言を行った。 集中講座受講者の学習支援をした。		有瀬 尚子	無し	
8	平成30年3月13日 (火) 19:00～21:00	2	鹿島市民交流プラザかたらい	13	継続支援	ボランティア教室活動のコーディネーションや助言を行った。 集中講座受講者の学習支援をした。		有瀬 尚子	無し	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第3回 30年3月15日】

授業で文法を理解し、会話練習を行ったあと、テキストの練習問題をした。今回は学習者が少なかったことで、ここに応じたきめ細かな対応ができた。それぞれの要望を聞き、勉強したい文法指導ができた。
かたらい受付の方がこの講座を知り、飛び入りでホームステイの高校生を参加させることもできた。



○取組事例②

【第6回 30年3月17日】

継続支援を集中講座の日程の途中に入れ込んだことで、集中講座の受講者とボランティア教室に来ていた技能実習生と活発に話す時間が取れた。

鹿島日本語教室のボランティアと日本語教室の受講者とともに発表会を行った。集中講座の受講者が、日本に来たばかりのとき日本語が分からずさびしかったことや、勉強を続けたことで今は日本の生活が楽しかったことを発表し、それを皆さんが熱心に聞いていた。鹿島市で行なった講座だったが、隣の嬉野市の子ども支援センターの方々が出張し、講座受講者の子どもをそばで見守ることができた。受講者も子どもがすぐそばにいて安心して勉強することができた。



(2) 目標の達成状況・成果

- ・鹿島市や嬉野市の担当者やボランティア教室との連携が密に取れたことで、受講者は、日本語教室での継続した学習ができた。
- ・「初級日本語集中講座」で効率よく且つ効果的に日本語文法を学習できた。
- ・受講者の感想からは、講座が役に立った、よかったなどの高評価を得た。
- ・「自分の弱の部分をしっかり説明してくれてよかったです。最近日本語を集中して勉強する機会がなかったんですけど、集中講座がきっかけで日本語にスイッチが入るようです。」
- ・「来たことができましたから学びました」
- ・「近隣の子育て支援センターから託児の方を派遣していただくことができ、受講者は安心して勉強することができた。市を超えて連携することができた。」

(3) 今後の改善点について

- ・1年に1回、1週間のコース日程に参加するのが難しい人もいた。参加を希望しても仕事等の問題で全日程参加ができないことがあった。
- ・毎年1回でも日程時期がしっかり固定していれば参加希望者にもその旨が伝えられる。講座を市で予算化して定期的の実施できるよう、今後、市の担当者と連携を組み合わせながら、どうすべきかを考えていく。
- ・文法学習は「初級日本語集中講座」で学び、集中講座の時間の長さが大変な受講者は、ボランティア教室で、という仕組みが形成されてきた。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施①										
【活動の名称：地域の日本語教室の活動を活性化するための「日本語教室活性化フォローアップ講座 in伊万里」】										
目的・目標	日本語教室の参加者（ボランティアも学習者も）が少ない地域で、教室活動を活性化させるための手立てを、“カスターネット”とボランティアが共に企画・運営し、スキルアップも図る。									
対象	伊万里市及び近隣地域の日本語教室で活動中のボランティア・スタッフ・外国人参加者及び周辺地域の一般市民									
取組の内容	伊万里市では、ボランティアが中心になって教室活動を続けているが、外国籍住民の散在地域ではなかなかボランティアも学習者も増えない現状がある。また、学習者が来ても初級者等ボランティアの手に負えない現状もある。“カスターネット”とボランティアが共に教室の活性化の手立てを考えるフォローアップ講座を、本年度は伊万里市で行った。ボランティアと共に、地域住民や学習者への周知のために市町行政と連携したイベントを行ったり、企業との連携を図った。また、入門講座の際、佐賀県の多文化社会コーディネーターに佐賀県の現状等説明してもらい伊万里地域の住民に地域日本語教育への理解を深めてもらった。その上で、教室活動を活性化させる講座を教室での実習を含めて行い、「初級日本語集中講座」も組み込んだ。【イベントの企画・準備等3回（貞松・有瀬）、イベント実施1回（貞松）、入門講座2回（北御門・貞松・有瀬）、実習前講座2回（貞松・有瀬）、教室での実践2回（貞松・有瀬）、集中講座の後に講座2回（貞松・有瀬）】									
実施期間	平成29年9月3日～平成30年1月30日					曜日・時間帯		日曜日（ 13:00～16:00 ）等		
開催回数	全23時間 （ 1回 2時間×7回+1回3時間×3回）					開催場所		伊万里市生涯学習センター		
参加者	伊万里市及び近隣地域の日本語教室で活動中のボランティア・スタッフ・外国人参加者及び周辺地域の一般市民 総数 28名（日本人 20名、外国人参加者 8名）							文化庁カリキュラム案教材例集 当団体作成 ガイドブック佐賀		
出身・国別内訳 （人数）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	
				3			4		1	
カリキュラム案活用	「医療機関で治療を受ける」を使って活動の仕方を考える 「安全を守る」を使って地震への対応について考える									
養成・研修の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師名	補助者名	
1	平成29年9月3日（日） 10:00～12:00	2	伊万里市生涯学習センター	11	講座の趣旨説明／ イベントの日程決め	講座の趣旨説明を行い、教室の問題点を洗い出す。／教室周知のためのイベント開催日程を決める		貞松明子	有瀬尚子	
2	平成29年9月10日（日） 10:00～12:00	2	伊万里市生涯学習センター	5	イベントの内容決め	教室周知のためのイベントの内容を決める。広報のためのチラシも教室参加者で作成してもらう		有瀬尚子	早瀬郁子	
3	平成29年11月5日（日） 10:00～12:00	2	伊万里市生涯学習センター	6	イベントの内容決め	イベント当日の会場の配置、準備、時間配分等、イベント実施の詳細を決める		貞松明子	有瀬尚子	
4	平成29年11月19日（日） 10:00～12:00	3	伊万里市生涯学習センター	25 お客さん10名 程含む	教室周知のためのイベント	主に外国人の「日本語教室いまり」の参加者が中心になって「アジアの遊び」と題したイベントを実施。		有瀬尚子	—	
5	平成29年12月3日（日） 13:00～16:00	3	伊万里市生涯学習センター	8	日本語ボランティア入門編①	①佐賀県内の外国人の状況説明 ②地域日本語教室の意義と活動の目的 ③「やさしい日本語」について		北御門織絵 (0.5h) 貞松明子(2.5h)	貞松明子 (0.5h) 有瀬尚子(3h)	
6	平成29年12月10日（日） 13:00～16:00	3	伊万里市生涯学習センター	9	日本語ボランティア入門編②	①前回欠席者のための復習 ②日本語を外国語として捉えてみる ③日本語の仕組み、特色について		有瀬尚子	貞松明子	
7	平成30年1月14日（日） 14:00～16:00	2	伊万里市生涯学習センター	6	日本語教室活性化講座①	「やさしい日本語」を使って実際に外国人と活動するため、教材例集「医療」ガイドブック佐賀から「病院」などの使い方を示す		貞松明子	有瀬尚子	
8	平成30年1月21日（日） 14:00～16:00	2	伊万里市生涯学習センター	6	日本語教室活動 実践①	「日本語教室いまり」の外国人参加者を相手に前週のトピックで話をした。伝わることばかりではないことを実感してもらった		有瀬尚子	貞松明子	
9	平成30年1月28日（日） 12:00～14:00	2	伊万里市生涯学習センター	7	日本語教室活性化講座②	「やさしい日本語」を使って実際に外国人と活動するため、教材例集「災害」ガイドブック佐賀などの使い方を示す		有瀬尚子	早瀬郁子	
10	平成30年1月28日（日） 14:00～16:00	2	伊万里市生涯学習センター	11	日本語教室活動 実践②	「日本語教室いまり」の外国人参加者を相手に前の時間のトピックで話をした		早瀬郁子	有瀬尚子	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第4回 29年11月19日】

今回の人材養成は、前半・後半に分けて行った。前半4回は「日本語教室いまり」の参加者(ボランティアだけでなく外国人も)に向けて行い、日本語教室を活性化させる手立てを探った。「日本語教室いまり」が活動していることを地域住民に知ってもらうために、同じ会場でのイベントを企画した。(第1回～3回)第4回はイベント当日。「アジアの遊び」というタイトルで、「ねことねずみ」(インドネシア)「バンブーダンス」(フィリピン)「飛行棋」(香港)「かるた」(日本)などの遊びを楽しんだ。それによって、伊万里市に多くの外国人(特にアジアからの)が住んでいること、楽しい交流の場所があることを地域住民に分かってもらえた。



○取組事例②

【第5回 29年12月3日】

後半の6回は、ボランティア初心者のための入門講座2回、教室活動を進めるための活性化講座2回、「日本語教室いまり」の参加者を相手にした実践2回を行った。表向きには全6回の「日本語教室活性化フォローアップ講座」として広報した。第4回で行ったイベント参加者やボランティアの知人、伊万里市の市報で見た方たちが集まってきて、これからボランティアとして活動するための心得、「やさしい日本語」の使い方を学んだ。また、佐賀県国際課多文化社会コーディネーターの北御門織絵氏に佐賀県の外国人の現在の状況、県としての取り組み等話していただいた。



(2) 目標の達成状況・成果

「日本語教室いまり」は技能実習生が多く集まるという状況にありながら、教室を支えるボランティアが不足しているという問題点があった。教室の代表からも、「現在月2回しか教室を開けないが、ボランティアが増えたらもっと開講したい」という希望を聞かされていた。まずは教室の参加者に活性化に向けての方策を示し一緒にイベントを考え、イベント参加者に講座への参加を呼びかける方法を取った。このやり方は、教室参加者への意識付けの意味もあり、効果的であった。今回の講座のアンケートの結果、5名の方が今後「日本語教室いまり」での活動を希望している。講座受講者数から見ると、5名の増はいい結果といえる。今後の「日本語教室いまり」の教室活動活性化により効果をもたらすことができた。

(3) 今後の改善点について

しかしながら、イベント参加者数が目標を下回っていた。周知の方法を検討する必要がある。また、現在「日本語教室いまり」が開かれている「伊万里市生涯学習センター」は街中からやや離れた場所にある。いろいろな条件を考えて現在の場所で開講しているが、イベントは別の場所でもよかったかもしれない。イベントから養成講座へ繋がる構図を描いていたが、実際の講座受講者はそうではなかった。

日本語教育を行う人材の養成・研修の実施②【活動の名称:学校において外国人児童生徒に対する日本語指導をサポートする「日本語指導支援員養成講座(子ども日本語指導者研修会)」】										
目的・目標	学校において外国人児童生徒に対する日本語指導をサポートする日本語指導支援員を養成し、また活動中の支援員の研修の場を設ける。地域の日本語教室でも外国人児童生徒の支援ができるよう広く人材を養成する。									
対象	現在活動中の日本語教員、日本語支援員を中心に、子供の日本語教育に興味を持っている一般市民									
取組の内容	外国人児童生徒に対する日本語支援の知識・指導技術等の講座(第1回～第4回)の他に、DLA開発の一員である櫻井千穂氏を招いて講演会を開いた(第5回)。【日本語支援員養成講座4回(早瀬)、講演1回(櫻井千穂氏)】									
実施期間	平成29年 7月19日～平成 30年 2月 24日					曜日・時間帯		水曜日(14:30～16:30) 土曜日(13:00～17:00)		
開催回数	全 12 時間 (1回2時間×4回+1回4時間×1回)					開催場所 使用した教材・リソース		佐賀商工ビル		
参加者	総数 88人 (日本語学習者 0人、指導者・支援者 88人など)							外国人児童生徒のためのJSL対話型アセスメントDLA 外国人児童生徒用教材		
出身・国別内訳 (人数)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	
	1						1			
カリキュラム案活用										
養成・研修の実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師名	補助者名	
1	平成29年7月19日(水) 14:00～16:00	2	佐賀商工ビル	19	外国につながる子どもたちを支えるために	学校における日本語指導のありかた 日本語指導内容、日本語指導の実践報告		早瀬 郁子	有瀬 尚子	
2	平成29年10月4日(水) 14:30～16:30	2	佐賀商工ビル	19	外国につながる子どもたちを支えるために	DLAの実践…④技能の診断方法 日本語指導についての情報交換 発表者 井手ゆずら(1時間)、学校教員		早瀬 郁子	有瀬 尚子	
3	平成29年12月6日(水) 14:30～16:30	2	佐賀商工ビル	14	外国につながる子どもたちを支えるために	日本語指導と教科指導 初期指導について、2年目以降の指導について、指導の分担について		早瀬 郁子	有瀬 尚子	
4	平成30年1月31日(水) 14:30～16:30	2	佐賀商工ビル	13	外国につながる子どもたちを支えるために	今年度の日本語指導のまとめ 指導報告書の書き方、DLA実施計画、来年度の指導計画、情報交換		早瀬 郁子	貞松 明子	
5	平成30年2月24日(土) 13:00～17:00	4	佐賀商工ビル	23	外国につながる子どもたちを支えるために	DLAの理論的背景-文化言語の多様な子どもの教育- DLA「読む」の実践法と評価法について		櫻井 千穂氏	早瀬 郁子 有瀬 尚子 貞松 明子 馬場 三佳	

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第3回 29年12月6日】

初期の日本語指導と教科指導について、2年目以降の指導について、また指導の分担について、それぞれグループに分かれて、どのような初期指導をしたらよいか、またどのような教科指導をしたらよいか等を現在指導をしている児童生徒の現状等を出し合い、問題点や改善点を話し合った。そして、グループ別に指導の工夫や問題点を上げて、今後の指導の改善点としてどのようにしたらより効果的かを出し合った。日頃なかなか相談することのない指導者たちが、指導のスキルアップや見直しのためのいい機会となった。

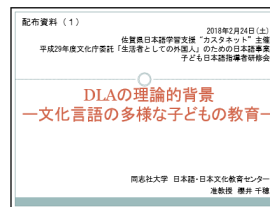


○取組事例②

【第5回 H30年2月24日】

DLAの作成に関わられた櫻井千穂先生をお招きして、「DLA『読む』の実践法と評価法について」の講演会を実施した。県外からの参加者もあり、充実した4時間であった。前半はDLAの理論的背景に関する講演で、CLD児の特徴や二言語と認知発達の関係や、支援のポイントを学んだ。後半は、DLA実施の意図と、具体的な実践法や評価法を実際に行われたICレコーダーを聴いての分かりやすい説明を受けたり、DLAの冊子には書かれていない細部の評価基準も知ることができ、最後に読みの教材を基に受講者がペアになり実施方法を考えるワークショップも行われ、中身の濃い時間となった。実際にDLAに携わっている人からの質問等、今後に活きる講演会となった。

アンケートからも、「大変内容の濃いお話をきけてよかったです。Assesment＝評価と思っていましたが、次に繋げる、育てていくためのものというように認識を改めました」「いつも悩んでいたのですが、診断や評価の方法がよく分かりました。その子の強み弱みを見つけ、今後の支援に繋げる視点を学びました」「基礎、理論などを分かりやすく説明してくださいました。実践例がとても多く、とても分かり安かったです」などと、大変好評であった。



(2) 目標の達成状況・成果

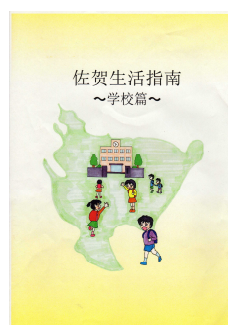
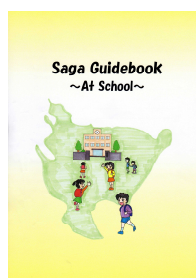
佐賀県下で子どもの日本語指導に関わっている人たちの日本語指導のスキルアップの場となった。また、日本語指導担当教員、日本語非常勤講師、日本語ボランティア等様々な立場の人たちが情報交換をすることで、連携が取れ、日本語支援が必要な子どもたちへの共通理解が生まれた。

さらに、今年度初めて、様々な機関が連携をしての講演会の実施が実現し、県全体の幅広い人々への周知にもなった。県教委主体の日本語指導者研修会等が実施されていない佐賀県においては、今回の「子ども日本語指導者研修会」は大変有意義なものであった。

(3) 今後の改善点について

県教委と更に連携を図ることで、子どもの日本語支援に関わる全ての人を対象とした研修会にして、全体のスキルアップと共通理解を図る必要がある。子ども支援に関わる中心的な地位にある外部講師を呼んでの講演会は、理論や実践を学ぶよい機会なので、受講者のニーズにあった講師を次年度も招聘したい。

日本語教育のための学習教材の作成 【教材の名称：『ガイドブック佐賀～日常生活編～』の作成、及び『ガイドブック佐賀～学校編～』の改訂、中国語版作成】			
目的・目標	佐賀県に住む外国籍住民が、佐賀県での生活にスムーズに適應できるための佐賀に特化した教材を作成する。 昨年度作成した『ガイドブック佐賀』の新たな編として『ガイドブック佐賀～日常生活編～』を作成し、さらに『ガイドブック佐賀～学校編～』の改訂と中国語の翻訳版を作成する。		
対象	外国籍住民、「日本語教室活性化フォローアップ講座 in伊万里」受講者、日本語教室ボランティア		
教材の内容	①日常生活編…7課32ページ 佐賀県の交通事情に沿ったものや、転居に関する情報、子どもが生まれた時や介護が必要になった時などの情報を織り込んだ。 ②学校編…昨年度作成した日本語版・英語版の増補 8+8=16ページ 及び中国語版の作成 28ページ		
実施期間	平成29年7月14日～平成30年3月20日	成果物のリンク先	http://1st.geocities.jp/castanetsnihongo/
作成教材の想定 授業時間 コマ数と頁数	①1回 2時間×2回×7箇所 = 28時間 ②1回 2時間×1回×7箇所 = 14時間	教材の頁数	日常生活編 32ページ 学校編 28ページ
カリキュラム案活用	04住環境を整える 15地域・社会のルール・マナーを守る		
教材の活用方法	1. 自学用として外国籍住民に教材を配布。 2. 日本語教室での対話活動教材として利用。 3. 編入生や新入学生を持つ保護者を対象とした説明会を実施。 各学校に配布し、転入生や新入生またその保護者へのガイダンス資料として利用。		
今後の活用の予定	ボランティア教室での教材とする。 新入学児童生徒へのガイダンス講座として利用する。		



2. 小学校一年間の例行活動(佐賀市)

※具体年度は日数各小学校者所不同
※学年毎に活動内容が異なる

学期	学校活動 按照“活动”“调查学习”“体 験”的顺序排列	家长也可以参加的 学校活动	必须由家长参加的成人活动
1 学 期	1. 学期开学典礼 (4月6日) 1. 年間新生歓迎会 - 春遊 - 進級式開講 - 学力測定 5、6 年級学習状況調査 - 身体測定、視力検査 - 学力検査、算数	- 入学式 (仅限于1 年級的家长) - 運動会 (有給学校於第2 学 期举办) - 公開講 - 学校开放日 (每个家长前可以选任一 先至到學校參加全校任何 一个年級的授课情景)	- 家长会 - 家长教師聯誼會(前期 PTA) 总会 - 水災等災害時の児童避難訓 練 - 家庭訪問

※注意：台及海外轉
運及時，家地如有利
學情問題，可隨時向
市教育委員會的學子訓
導。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

散在地域である佐賀県では在住の外国籍住民への日本語教育支援が十分に行き届いていない現状がある。そこで平成29年度も以下の3つの目的で活動する。

①昨年度に続き3市で「初級日本語集中講座」を行う。

②一つの市でボランティアと共に活動する「フォローアップ講座」を開講し、地域の日本語教室の継続的な活動を支援する。また、外国人児童生徒に対する日本語指導をサポートする人材を広く養成する。

③昨年度に続き、佐賀県在住の外国籍住民のためのガイドブックを作成、増補する。これらの活動によって、外国籍住民が自立した生活ができるように支援する。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

・①に関しては、開催市の市担当者やボランティア教室との連携が密に取れたことで、受講者は、「集中講座」で文法基礎や文法体系を学ぶことができ日本語教室での継続学習がスムーズにできるようになった。

・②の「日本語教室活性化フォローアップ講座 in伊万里」に関しては、「日本語教室いまり」は、これまで学習者に比べボランティアの数が少ないことから十分な支援ができていないという現状があったが、この講座の開催により、新たなボランティア希望者を得ただけでなく、これまでの教室参加者への教室活動活性化の意識付けとなりよい結果をもたらすことができた。

・②の「子ども日本語指導者研修会」は、佐賀県下で子どもの日本語指導に関わっている人たちの日本語指導のスキルアップの場となった。また、日本語指導担当教員、日本語非常勤講師、日本語ボランティア等様々な立場の人たちが情報交換をすることで、連携が取れ、日本語支援が必要な子どもたちへの共通理解が生まれた。

・③の「ガイドブック佐賀」は佐賀県の特徴を盛り込んだ地域性のあるガイドブックを作成することで、佐賀県で暮らす外国籍住民が自立した生活ができる支援を目指したものである。「学校編」は、増補及び中国語版の作成は、早速中国からの編入生の保護者へのガイダンス資料として役立った。「日常生活編」は、上記①「集中講座」及び②「フォローアップ講座」に利用し、今後も地域の日本語教室で活動の補助教材として活用していきたい。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

カリキュラム案は地域の日本語教室では欠かせない内容が多く含まれているので、それぞれの活動で使用している。

・①では「安全を守る」「社会の一員となる」「目的地に移動する」などを使用した。

・②では、「医療機関で治療を受ける」を使って活動の仕方を考えたり、「安全を守る」を使って地震への対応について考えたりした。

・③では、「04環境を整える」「15地域・社会のルール・マナーを守る」などを参考にして、佐賀の地域ならではの情報を加えたガイドブックを作成した。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

・①と②は開催する場所が佐賀市以外なので、市役所・町役場の担当者と連絡を取り合い、会場の確保・市報等への掲載・チラシの配置などで協力を得ることができた。

・①の伊万里での集中講座では、市の国際戦略室の担当者が見学に来られたり、受講者の紹介をしてもらった。また、各講座とも日本語教室との連携により、受講者を集めることができた。また、各市の子育て支援センターとの連携により、子育て世代の受講者が増えた。

・②のフォローアップ講座では、佐賀県国際課の多文化社会コーディネーターに講座の講師を担当してもらうことができた。

・②の子ども日本語指導者研修会では、佐賀県教育委員会、佐賀県国際交流協会等の連携を取りながら講演会を開催することができた。

・③では、(公財)佐賀県国際交流協会、佐賀市国際交流協会、佐賀県教育委員会、佐賀市教育委員会、県内の日本語教室の協力も得られ、学校現場や日本語教室で活用された。

(5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

・①②では、開催市及び隣接市町の協力を得て、市報に掲載してもらった。また、チラシを関係各所に配置してもらった。

・②では、伊万里ケーブルテレビの「イベントお知らせコーナー」に出演し講座の告知を行った。

・成果の発信は主に③の「ガイドブック佐賀」に関してであるが、昨年度と同様に、当会のホームページに掲載するだけでなく、(公財)佐賀県国際交流協会、佐賀市国際交流協会、佐賀県教育委員会(学校編)のホームページに掲載してもらう予定である。

冊子として印刷する「学校編」においては、県下の外国人児童生徒の在籍する学校に配布するとともに、佐賀市民課窓口や佐賀市教育委員会に置いて、転入外国人に配布してもらう予定である。

(6) 改善点、今後の課題について

・①と②に関して、講座の周知が難しかった。開催地域の担当者の意識・熱意の差も感じられた。今後は、メディアへの働きかけを早い時期から行うべきだと感じた。

・②の「子ども日本語指導者研修会」等は、行政との連携により、学校に関わる全ての人が参加できるような研修会にしたい。

・③の「日常生活編」については、当初の計画の内容が多すぎて今回全章を完成させることができなかった。来年度引き続き追加の項目を加えて冊子を作る予定である。今回は、前半部をネット上のみ載せることにした。来年度は、年度初めに作業スケジュールを立て、計画的に進めていきたい。

・開始は6月まからとなっているが、全ての計画を早め立てて1年の流れを見通しながら進めなければならぬと感じた。

(7) その他参考資料

アンケート チラシ

[illegible]

